

一人ひとりの想いつたえたい >>> あなたの声でつくる情報誌

NO. 59

2005・夏号

まなこ

企画・発行

武蔵野市企画政策室市民活動センター男女共同参画担当



特集 とともに生きるまち

取材

- パトロール隊、今日もまちをゆく
- 人と科学と自然と
- 小さな公園は、大きな玉手箱

武蔵野市防災安全課
レポーター体験記 小澤和彦
成蹊大学 弓削 康平さん
磯部百合子さん

寄稿

- ・ 自然は子どもの秘密基地? いいえ大人も……
- ・ 生垣のある通りで

まなこレポーター 戸田真帆子
まなこレポーター 上野敏子

情報

- ・ 平成17年度予算 ・ 男女共同参画講演会のお知らせ
- ・ 男女共同参画 推進団体 活動補助金交付対象事業の紹介

市民活動センター男女共同参画担当

平成17年度の『まなこ』は、「共生」を年間テーマに取り上げます。

人と人との結びつきが弱くなってきている今、支え合える仲間がいたら、どんなにか心強いことでしょう。支えたり、支えられたり、お互いの立場を尊重しながらも心寄せ合い、ともに生きるためにはどんなことが大切でしょうか。

まずは私たちの住むこのまち、武蔵野市の中にその手がかりをさがしてみませんか。きっと、すてきな心の風景が広がるはずです。

安心・安全なまちをめざして

パトロール隊、今日もまちをゆく

昨年度の市のアンケート調査で、「安全な市民生活の確保」は市民が行政に対して重点的に進めてほしい施策の第一位になった(表1)。

安心・安全なまちづくりには欠かせないものは何だろう。市内で活躍する三つのパトロール隊、**ホワイトイーグル**・**ブルーキャップ**・**市民安全パトロール隊**について取材するため市の※総務部防災安全課を訪ねた。

市民安全担当の三浦義博係長に隊の説明を、ホワイトイーグル隊員の近田浩典さんと野瀬誠さんに活動を通しての想いを伺った。

パトロール隊が誕生したいきさつは？

大阪の池田小学校をはじめ学校侵入事件が相次いだのを発端として、平成14年10月、市は「生活安全条例」「つきまとい勧誘行為の防止及び路上宣伝行為等の適正化に関する条例」を制定しました。それぞれに基づき、通称ホワイトイーグル・ブルーキャップという2つの安全パトロール隊を発足させました。しかしこれだけでは市の隅々まで届かないので、市民自身による「武蔵野市市民安全パトロール隊」を昨年の10月から新たに始めました。

それぞれの活動内容は？

ホワイトイーグルは、市内の小中学校・幼稚園・保育園・児童館など子



吉祥寺駅前で活動するブルーキャップの隊員。道行く人にはとても心強い存在だ。

も施設を中心に立ち寄り、周辺も警戒しながら、不審者等の情報収集を行っています。市が警備会社に委託。平日の午前9時から午後6時まで、2車両に2人ずつ乗車してまわっています。

ブルーキャップは警察官OB4名と、委託した警備会社から6名の計10名で、つきまとい勧誘行為や路上宣伝行為(通行人に迷惑をかけないティッシュやチラシの配布)の指導を行っています。年末年始を除いて午後1時から8時(土・日・祝日は午後1時から6時半)まで、吉祥寺駅周辺の「勧誘行為等適正化特定地区」で活動。たばこのマナー注意等も行っていきます。以前、吉祥寺駅前火災を発見し初期消火に努めたこと



ホワイトイーグルの車両前で。「桜まつりでこの車両を展示したとき、写真を撮り乗ってみたいとちびっ子たちがたくさん集まってきました。テレビの〇〇戦隊を連想する子もいたのかな」



市民安全パトロール隊

「自宅周辺のパトロールを毎日行う隊員もいます」

もありました。「吉祥寺駅周辺が歩きやすくなった」と、商店街や市民の方々から評価をいただいています。市民安全パトロール隊は安全と犯罪抑止効果を目的として、各丁目ごとに1人の計51人を目標とし、市民の中から隊員を集め非常勤特別職として委嘱しています。市内を3つの地区(東・中央・西)に分け、それぞれに隊長・副隊長をおき、隊員は時間が取れるときに専用のジャンパー・帽子・腕章を身につけ、週1回以上自宅周辺を巡回します。複数での夜間のパトロール、警察との合同パトロールを行うことも。「この地域は防犯意識が高い」そのことが犯罪抑止効果につながっていくのです。近所に不審な人がいれば「こんにちは」と一言声をかけるか、110番通報してください。

ホワイティイグルの活動を通しての想いは?

不審者等情報収集は、私たちの大切な役割ですが、プライバシー等の問題もあり正確な情報をどこまで伝えられるか、そこにむずかしさを感じます。「1日1回来てくれるから安心」「うちのほうにも立ち寄ってほしい」そんな声が多く寄せられ、立ち寄る場所も開始当初の45施設から現在71施設になりました。

また、これは他の隊にもいえることですが、本来の業務以外に頼まれごとも多く、ゴミ問題や、園庭の木に来るカラスが子どもたちに危害を加えないかなどの相談を受けることもありました。自分たちが思う以上に、頼りにされているようです。本来の業務をしながら状況に合わせて活動するようにしたいですね。

学校の入学式で紹介されたり行事に参加して、子どもたちに安全上の注意を話す機会は何度かあります。けれどもどうしても、暗くなつて1人で家路につく場合もある。それを見ると大丈夫かなととても気になります。「できるだけ1人にならないように」と声をかけています。

取材中感じられたのは、安全パト

ロール隊にかかわっている方々の思いやりと優しさ。

隊の姿に安心感を覚える人が多いのも頷ける。最後に三浦さんから次のようなメッセージを。「パトロール隊に出会ったら、声をかけてください。気軽に挨拶されるだけで励みになります」 (取材 加藤和子)

※総務部防災安全課は7月1日から防災安全全部安全対策課に変更となりました。

取材体験記

ふれあいでまちを守る まなこレポーター 小澤 和彦 (写真右)

日本の治安は年々悪化し、犯罪も悪質化・増大化していることはすでに現代人共通の認識です。これに対して、どんどん新しい刑罰法規を作って、刑もどんどん重くなるような政策がとられています、顕著な効果があがっていないと聞きます。

まちの治安をよくするためには、きびしく処罰するだけではダメでプラス何かが必要なのです。私は、今回取材に訪れて、そのプラス「何か」を知ることができました。

それは、住民の結束です。なあんだ、そんなの以前から言われていることじゃないかと思う人もいるでしょう。住民の

結束といっても、お隣同士でさえ、よく話したこともないという現代社会で、ご近所同士で声をかけあいましょうとスローガンを一方向的に掲げられても、そんなこと言われたってねえ、と誰もが戸惑ってしまいます。

3つの隊の方たちは、市内のいろんな所で、迷惑行為を行っている人間に注意をしたり、不審者に声をかけたりしていますが、お話によると、そういう「良からぬ？」人たちだけではなく、保育園の職員や子どもたち、通行人の方々にも安全に気をつけるように、いろいろ声をかけているそうです。そして、そういうふれあいを大事にされているからこそ、住民の方々もホワイティイグルの隊員の方たちを信頼し、いろいろ相談したり、声をかけたりするそうです。

このような一つひとつのふれあいが核となって、徐々に市民相互間においても、安全に対する結束感が生じ始めており、自分の地域は自分たちで守るという治安モデルができてつつあることを肌で感じることができました。



重い責務を負い、緊張を強いられているにもかかわらず、隊員の方たちの笑顔はとても柔和でした。

(表1) 市政の中で重点的に進めてほしい施策 (複数回答)

第1位	安全な市民生活の確保	46.6%
第2位	高齢者福祉の推進	35.5%
第3位	自転車対策の推進	24.5%
第4位	子ども施策・青少年施策の充実	20.7%
第5位	駅周辺の整備	17.5%
第6位	小・中学校教育の充実	16.5%
第7位	健康増進施策の充実	16.3%

「平成16年度市政アンケート調査」より

人と科学と自然と



バッテリーカー「SEIKEI 006」と。後列中央が弓削さん。
学生たちには「ちょっと怖い先生」であるらしい。



成蹊大学理工学部教授
ゆげ 弓削 康平さん

理工学部に入ってくる学生の中には講義を聞くだけではなく、自分の手で何かを作りたいと思っているんですよ。

成蹊大学教授、弓削康平さんは総合的な教育の重要性を感じていた。先生の専門はコンピュータを用いて力学のシミュレーションを行う「計算力学」。

98年から環境にやさしく、レースという目標があり、スピードが出ないので安全であることからソーラーカーを作り始めた。さつそく「計算力学」の研究を生かしてコンピュータで向かい風の抵抗や車の強度を調べ、レースに参戦。しかし、海からの横風に走行距離は予想より下回った。実際の走行ではシミュレーション通りにはいかないことを実感した。ソーラーカーレースはその特性上、夏場に集中するため、03年からは通年開催されるバッテリーカーレースにも参戦するようになった。ここでも雨天のため前を見通すスクリーンが曇って、走行が不可能になったことがある。これも全く予期していなかったできごとだ。

毎年、前年までの失敗の教訓を活かして臨むが、その都度新たなトラブルが起きる。恩師の言葉「事故は

予想しない原因で起こる」が頭をよぎる。それでも学生たちは活き活きとしている。レース出場は「勝つ」という目標がある。勝ちたいという気持ちは技術の向上につながる。「自ら進んで勉強をするようになりました。ものを作るということは授業として学んだ多くの知識を組み合わせて考えることが必要なんです」日焼けした顔で満足気に笑う。

先人の知恵と科学

ソーラーカーはソーラーパネルで太陽光を集め電池に蓄電する。それを動力とするので、二酸化炭素を出す化石燃料は使わない。同じように、太陽光を集め夜になるとオレンジ色に光る釘が道路に埋めてある。庭や塀の傍にある常夜灯、そして家の屋根に張るソーラーパネル。環境にやさしいまち作りは身近なところでも進んでいる。

今、研究にも日常生活にもコンピュータは浸透しているが、コンピュータが発明されるはるか以前の建造物でもしっかりとした耐震構造を持つ

ているものは多い。江戸時代に作られた徳島県吉野川の河口せきは、精密なだけではなく、いかに自然を守るせきであったか思い知らされた事例だ。

またエアコンなどなかった時代からの「打ち水」もその効果が科学的にも立証済みだ。「いつも先人の知恵には脱帽しています。それでもいつかはその知恵を超えられるコンピュータを作れたら……」

成蹊大学で教えるようになって13年。通い慣れた道もほとんどがアスファルトになった。「土の道を歩きたくなり、出かけています。まだ武蔵野市は緑の多いほうだと思います」

学生たちはレースに出て、風を受け、太陽の光を浴び、自然の中から科学の醍醐味をつかみ取っていくのだろう。現在、研究室のメンバーは21名。カーの製作、走行にはかわつていないが内3名は女子学生である。この春、成蹊大学理工学部には、82名の女子学生が入学した。

取材 尾花雅子(文)・松田理恵

〈関前公園〉

小さな公園は、大きな玉手箱

磯部百合子さん

関前



トンボ池を背にした磯部さん

自宅近くの関前公園は、小さいながら木々が茂る丘、滝、じゃぶじゃぶ池もある人気の遊び場です。そしてトンボ池と呼ばれ親しまれているもうひとつの池での恒例行事が**＊かいぼり**。バケツや網を手に百人近くも子どもや親子連れがぞくぞく集まります。子どもたち

は池に入って水を干し上げ、たまった泥を掃除し、ザリガニや魚を見つけ、どろんこで張り切っています。

虫も小鳥もたくさんいるこの公園は、走り回るのが楽しくてたまらない年齢の子にも、幼い子と野花を集める休日のパパにとっても、憩いの場。夏の太陽の下、スイスイ飛ぶトンボに触りたくて何度もチャレンジし、素手で捕まえてすぐく喜ぶ子もいます。でも虫カゴの中でぶつかると羽はボロボロ、飛べなくなってしまうかわいそう、と今度はしょんぼり顔。「むやみに採ったり持ち帰ったりせず、放してあげるのでもいいのかな」と、親子で相談しあっているお宅もありますよ。

かいぼり参加のおみやげにいただいたのはメダカ。エサをあげる子どもとまめに水を替えるおじいちゃんやの連係プレーで卵が順調にかえり、家ではもう数世代目になりました。産卵が済んだら世代交代なのか親の姿が見えなくなる、そんな営みに初めて気づき、身近な自然のかけがえの無さを感じます。(取材 藤井美里)

関前公園では平成6年4月の開設以来、身近な生き物に関心を持ってもらうようにと、トンボ池で幼虫のヤゴを育てています。例年7月の＊かいぼりとは「掻掘」。池の掃除のほか、本来いるはずのないザリガニや亀・金魚・鯉等を子どもたちに捕まえてもらい、ヤゴがすめる環境に戻すことが目的です。作業をしながら生き物の解説があり、子どもたちも興味しんしんで聞き入ってくれますよ。今年で10回目になるかいぼりは7月23日(土)、小雨決行です。帽子を忘れず。(武蔵野市緑化環境センター 大塚さん)



関前公園

関前3-14、約4,100㎡

●三鷹駅からムーバス北西循環⑫関前公園下車

私はトンボ。この池からシオカラトンボやショウジョウトンボ、クロイトトンボなどが巣立っていくんだ。かいぼりのおかげでヤゴの天敵が減って、安心。でもゴミを忘れて帰る人がいると大変。池の上や家の前に吹きだまると困ってしまうよ。



このはなこうじ
〈木の花小路公園〉

自然は子どもの秘密基地？いいえ大人も……

まなこレポーター 戸田真帆子

成蹊大学西側にある木の花小路公園を知っていますか。古いお屋敷2軒分ほどの小さな公園の小路の周りには野の花が植えられ、また自然に芽吹いた草花もすくすくと静かに育っています。そして、木々の緑も空に向かって伸び輝いています。案内板には季節の植物が紹介されています。ボランテアの方たちから大切にされているのかわかり、訪れるたびに感謝の気持ちで芽生えます。

近所に住む私は、買い物帰りに我が子と立ち寄ってひと休み。たまにおにぎり持参でピクニック気分を味わったり……。草花の名前を話しながら楽しそうに眺めるご夫婦、愛犬を連れて気分転換の方、一人でのんびりベンチに腰かけるお年寄りなど訪れる人はさまざまです。備え付けの雑記帳に「この公園で元気をもらったよ！」とメッセージが書かれていたこともありました。いろいろな思いの人が立ち寄り、癒されているのを感じます。

同じ社宅の「子ども大好きお父さん」は休日になると社宅のチビツコを集めては公園にくり出します。春はオタマジャクシを見に行くのです。池の周りをぐるぐる歩くミニ探検が子どもは嬉しいのか、いつしか「オタマジャクシ公園」と呼ぶようになりました。夏にかけてはヘビイチゴを見つれたり、黒アゲハに歓声を上げたり、たくさん体験をしています。笹の葉に短冊が揺れる夕涼み会、秋の紅葉、真冬の葉の落ちた枝の間から見える青空。季節を感じながら豊かな心を育てられているのだと思います。

木の花小路公園

平成10年4月開設。約300種の山野草木と地下水を利用した流れや池があり、市民ボランティアの管理下、四季折々に珍しい山野草の花が楽しめる公園として親しまれています。吉祥寺北町3-8、約700㎡

●吉祥寺駅からムーバス北西循環⑬かくれみの公園下車徒歩1分



葉っぱの陰にトカゲがちょろり「子どもの頃は私も手でつかまえられました」



寄稿

生垣のある通りで

まなこレポーター 上野 敏子

武蔵野市に住み50年。故郷の習慣で2本の柿の苗木を植えた。梅、李、月桂樹、杏など次々と苗木を植え育てた。秋、落葉樹を米袋にギョウギョウに詰め込み、足でしっかり踏み込む。厚手のビニール袋は、丈夫で破れない。下方の両隅を少し傷つけると、雨水は溜まらない。庭の隅に並べる。開けた口から雨水が入り、下から流れ、やがて蚯蚓が大量発生して、落ち葉は土に变身。土竜は蚯蚓が好物なので、庭土が土竜にポコポコ持ち上げられないよう、袋の下に瓦を敷く。土竜は全身灰黒色、前足がシャベル状でビニール袋を簡単に破ってしまう。毎年瓦を敷いているうちに、土竜はやって来なくなつた。

1年経ち高の減つた腐葉土に、大寒、骨粉と油脂を混ぜ、樹木の回りに穴を掘り、寒肥にする。ゴミ減量が出る上、樹木にとつても良い。我が家は何十年もこうして腐葉土を作つて来た。経済的で少しの手間、後は自然まかせ、楽しい。

移り住んだ頃、ほとんど生垣だった。改築になると、生垣、銀杏は姿を消し、我が家だけ残つた。生垣は、苜込みの外木を支えるのに檜の杭を打ち、唐竹を棕櫚縄で結えねばならない。材料を商う店は廃業し、組める庭師も少ない。幸い、50年の付き合いだから組み直すことができた。鉄戸を生垣にと頼んだが、無理だとか。経済的に大変だが、災害時倒れないし緑は心を癒すから、大事に守りたい。

私の通りは、世代は変わつても仲良しだ。引越して来た時と同じように呼び合う。名前にチャンをつけて呼び、私はおばさんと呼ばれる。隣同士留守番をし、旅行時は植物の水やり、犬の散歩も代行。挨拶は当たり前、行つてらっしゃい、行つて来ます、お帰りなさい、ただいま。子どもたちには「気をつけて」。見かけない人には、笑顔で「どちら様お探ですか」と尋ねる。

以前、軒並み泥棒に入られたが、今は平穏。私は緑が多く、静かで心優しいこの街が好き。ここに住める幸せを感じ、住み続けたい。



まなこ59号アンケートから

『まなこ』のアンケートはレポーターを中心にお願いしています
(レポーターは毎年3月に募集)

Q1 あなたは日々の生活の中で、環境のために心がけていることが何かありますか？

- ・買い物の際、マイバックを持参している。
- ・車を持たない。
- ・食器を洗うときあらかじめ汚れをふき取ったり、野菜をポイルしたお湯を使う。
- ・我が子に環境を守ることがいかに必要か考えさせるようにしている。私たちの世代がいくら気にかけても次の世代に続いていかなければ、いつか地球はだめになってしまうのでは。リサイクルなどからこの青い空がいかに貴重か、といったことまでその折々に話しているつもり。自然と心に染みていってくれたらと願う。
- ・風呂の残り湯の再利用、電気はこまめに消す。
- ・ゴミの分別と減量。資源になるものは資源回収に出す。
- ・再生紙などリサイクルされたものを使う。

Q2 「ホワイトイーグル」「ブルーキャップ」「市民安全パトロール隊」の活動をご存知ですか？



- ・見たことがないので是非知りたい。
- ・活動内容をもっとアピールしてもよいのでは。
- ・吉祥寺の人ごみの中で腕章や帽子を見かけるだけで安心する。こちらからも「ご苦労さま」「ありがとうございます」と声をかけられるようになりたい。
- ・以前、吉祥寺に行くと「手相を見せてください」と言うおの人がいたが、ブルーキャップの協力で見かけなくなり、とても気分良く過ごせるようになった。
- ・夜間、三鷹の中央通りを十数人で列をつくって見回っているのに出会ったことがあり、安心感がわいた。犯罪を抑制する力もあるのではないかと思う。
- ・隣の区で子どもの連れ去り事件があったとき、当時小学校に通う子どもが「今日、ホワイトイーグルが学校に来てくれたよ」と。子どもたちも安心して下校したようだ。

市民活動センター 男女共同参画担当では

TEL 0422 (60) 1869 FAX 0422 (51) 5638 URL <http://www.city.musashino.tokyo.jp/>

■ 平成17年度男女共同参画施策予算

平成17年度市民活動センター男女共同参画担当の予算は11,280,000円です。内訳は、

- ①男女共同参画推進市民会議費762,000円
- ②むさしのヒューマン・ネットワークセンターの管理運営費5,386,000円。男女共同参画問題に関する市民・団体の自主活動・情報交換・ネットワーク化などを促進。管理・運営委託料、光熱・電話・回線通信費、複写・印刷機借上料など。
- ③男女共同参画施策事業5,132,000円。講演・講座実施。男女平等情報誌『まなこ』作成。男女共同参画推進団体活動事業補助金など。

■ 男女共同参画講演会のお知らせ

日 時：8月19日（金）18：30～20：30

場 所：武蔵野公会堂（吉祥寺駅南口から徒歩2分）

講 師：水谷 修

テーマ：「夜回り先生」が語る子どもと社会の問題（仮題）

内 容：「夜回り」と呼ばれる深夜パトロールで出会った子ども達から見える社会の問題についてお話いただきます。

定 員：350名 市内在住・在勤・在学者（中学生以上）
（入場券を送付します）

無料 手話通訳付き

保育7名（2歳以上学齢前まで）

申込み：7月29日（必着）までにはがきで。（記入例参照）
定員になり次第、申込み受付を締め切らせていただきます。

〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28 武蔵野市市民活動センター

■ 平成16年度男女共同参画推進団体活動補助金交付対象事業の紹介

これは男女共同参画推進団体が男女共同参画社会の実現に向けて行った研修・調査・研究等の活動に対し、経費の一部を補助し、活動の活性化と市の施策の推進を目的としています。

補助金の交付は、1団体各年度1回、上限5万円です。申請団体が多数の際は、交付されない場合もあります。手続きは市民活動センターへお問合せください。

- *①生活クラブ・グループ創 (①団体名②内容)
 - ②公開学習会「むさしの思春期トーク」
- *①武蔵野ブラショフ女性問題研究会
 - ②男女共同参画シンポジウム・ルーマニア事情
- *①Musashino International Club (MIC)
 - ②講演会「駐日ウガンダ大使講演会」
- *①ヒューマン・サポート
 - ②講演会（全3回）「親のストレス・子どものストレス」「夫のストレス・妻のストレス」「ストレスと自己実現」
- *①ブラックライトシアターひらけ黒ごま
 - ②ブラックライトシアター上演・エコロジーゲーム
- *①武蔵野kids
 - ②講演会「ヨガでリフレッシュをして育児についての情報を話す会」
- *①カウンセリング講座むさしの
 - ②講演会「生活の中に生かすカウンセリング」

① 男女共同参画講演会
② 住所
③ 氏名（ふりがな）
④ 年齢
⑤ 性別
⑥ 電話番号
⑦ お子様の氏名（ふりがな） （保育希望の場合）
⑧ お子様の生年月日
⑨ お子様の性別



記入例

Q3 市内で自分のお気に入りの場所がありますか？

- ・子どもが学校に出かけたあとの我が家……今日も元気に学校に行ったという喜び
- ・市民文化会館……電話などのしゃまが入らず、近くで気軽に好きな音楽を聴くことができる。
- ・成蹊学園のけやき並木……けやきを見上げると自然の中に自分がやさしく包まれている気持ちになる。
- ・武蔵野中央公園……広々とした空間で、新緑の季節が特に好きだ。木陰での読書やバーベキューなど、子どもが小さいときはよく出かけた。
- ・井の頭公園……大きく育った木の緑に囲まれてそぞろ歩くと頭がすっきりしてくる。昔親戚が茶店を営業していたこともあり、自分のルーツの一つがあるような心のよりどころでもある。
- ・玉川上水沿いの道……高木が多く上水の流れとともに、すがすがしい気分になる。土の上を歩く心地よさもいい。
- ・市役所の前の道・四中の前の道・陸上競技場……「今年も桜が見られて幸せ。日本人に生まれてよかった」と思う。

*この他にもたくさんのご意見をいただきました。ありがとうございました。

●青木かつみ (39歳)

ふだん何げなく目にしてはいるまちなみを、もっと深く知るきっかけになればと思いレポーターに応募しました。これを機会に武蔵野市を探りたいと思います。

●上野 敏子 (74歳)

『まなこ』を通して、男だからとか女だからではなく、一人の人間として生きて行くのにどうすればよいか考えたい。自分がしっかりして前向きに明るく生きたい。

●小澤 和彦 (33歳)

今年度、『まなこ』レポーターに加えて頂きました小澤です。他のレポーターや編集委員の方(全員女性の方)の熱気と迫力に圧されないよう頑張ります。



レポーター
会議風景

4月20日(水)10:00~12:00
市役所第606会議室にて

●杉浦 定子 (81歳)

『まなこ』レポーターのお仲間に入れていただいて、うれしく思っております。これからは皆様方と一緒に若いパワーをいただいて、残された人生を楽しく生きたいと思えます。

●寺田 美都 (30代)

母親としてのインテックスだけではなく、ひとりの人間として、未知のインテックスを増やすためにも、多くの方々と関わっていききたい。

●戸田真帆子 (40歳)

主婦業と子育ての日々、気がつけばパソコンも携帯もまるで使いこなせない私……。でも、何かできることがあるかな、と不安と希望で踏み出した一歩です。

●馳 令子 (51歳)

新しい自分探しの一歩を踏み出して一年。新たな出会いや経験、再発見したことなどすべてが私の財産になっています。この一年も新鮮な感動を求めて歩いていきたい。



次号60号は、「時間との付き合い方」について考えます。家族や友人と過ごす時間、自分一人のための時間。少しでも時間を有意義に過ごすための鍵を、さがしてみませんか。



今回のテーマに関する本を、むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書の中から

●戦争と平和 それでもイラク人を嫌いにならない

高遠菜穂子 講談社



2000年、30歳になったのを機に仕事をやめ、以後インド、タイ、カンボジアの孤児院やエイズホスピスを手伝う。03年には、イラクで、主にストリートチルドレンの自主支援活動を行う。そして04年4月7日、4回目の入国の際ファルージャ近郊でイラク人の武装勢力に拘束される。拘束から解かれた後も、心身ともに不調に陥り、底なしの無力感に襲われる。が、このニュースが日本で流れた時、多くの人々が自分たちを救おうと寝食を忘れて奔走してくれたのを知った。日本、イラク、世界中の人々への感謝の気持ちを、いま「生かされた命」にあることを、痛恨の想いをこめてつづる。

●「ひとり」を支える女性たち - 介護・福祉・医療・教育の現場から

WWR研究会編 学文社



WWRとは、Women's Well-being Researchの略。男性社会の固い枠組みに縛られることなくひとりの人として、ゆるやかに、しなやかに、そしてしっかり生き、考える研究会である。この会の6名の女性が、人間のライフサイクルのさまざまな側面を①ひとりを支える女性たち ②命を守り、社会をつなぐ子育て ③「生きる力」輝け ④介護保険制度のすき間をうめる女性たち ⑤ひとりでも子どもを産む現実と向きあって ⑥障害を抱えている人の社会参加のかたち について各自の専門分野から描いたもので、共に生きるまちづくりに、具体的に示唆に富む一冊。

武蔵野市境2-10-27 武蔵境市政センター2階 TEL・FAX 0422 (37) 3410
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp URL http://www.clipcraft.or.jp/m_hnc

STAFF

レポーター 青木かつみ・上野敏子
小澤和彦・杉浦定子
寺田美都・戸田真帆子
馳 令子

取材・編集 森 治美(編集長)
尾花雅子・加藤和美里
福井貴美子・藤井美里
星 詩子・松田理恵

★他にもたくさんの方のアンケート協力員、編集協力員に支えていただいています。

レイアウト 小井戸厚子
イラスト 本田 倫
印刷 社会福祉法人 東京コロニー

★今年も、楽しく、そして心に残るような『まなこ』をつくっていききたいと思えます。よろしくお祈りします。(森)

★息子が昨年経験した「入園」のわくわくを、今、自分が体感しています。「私が貢献できること」見つけられますように。(松田)

★テレビで流行りの節約生活。おかげで子どものチェックが厳しい。節約して環境にも優しいなんて…一石二鳥!(星)

★夏の朝、羽化したアゲハ。指先に軽く止まってから飛び去った。あのとき確かに心を通じたよね。忘れないよ。(藤井)

★新しいレポーターさんにお会いしました。皆初々しく、緊張感も爽やか。私も初心忘れず！で頑張ります。(福井)

★市役所の上階から見える武蔵野のまち。緑の豊かさ、美しさを実感。編集で疲れた？目と頭にしてみています。(加藤)

★どんなに科学が発達しても人間は自然の中で生きている。改めて考えることができ。土に水に風に感謝。(尾花)

編集後記